百撰百笑

小林清親繪

大判

西垣文庫
文庫10
5481

日本萬歲百撰百笑

文庫10
5481

帝國文庫

早稲田大学図書館
011488542062

日本萬歲百撰百笑

目録

ちゃんちゃんの猿清
蹈潰しの歌
龍宮の騒き
奉天府の荷尤介
清代限り
縁の當惑
厚い面の皮
飛ぶ老大國
自業自得
威海衛の大漁
大兵降
勇ましい子供おび
北京の摘草
患吽と愁傷
大歯を抜く
清國困苦民兵
漁翁島のひき家
李鴻章の大頭痛
人間の皮剥
下流進
日兵の一捻
逃げ仕度
清兵の冷うされ
北京嬢の落涙
清狂言は降状
諭快な運動
支那人形
頓智盗難除
三途川の大混雑
臆病神
支那玉遣ひ
退將
新日本の開拓
おかし支那兵士
敗將
地獄の大繁昌
退將の涙別れ
木偶の坊
首ッ
長足の進歩
討清玩具
向ふ處ふ敵
清發明の危械
支那土産
是ハ澎湖島
案山子ふ驚く
二奥の到来

帝國文庫

日本萬歳百撰百笑

○ちゃん〜の臆病〜　骨皮道人

怖い〜思ヤ常ふ鬼を見ると云ふ自己ア出の故ら日本の兵隊ゲ怖〜〜〜堪らぬ〜〜〜〜日本の兵隊、百戦百中ざの。百戦百勝ざと云ッて。軍艦と打沉めろ〜牙山の……キャッ……

「オヤ〜ちゃん〜坊主めが。兵隊の人形を見て目を廻ッやがッ。態ア見ろ頭ろ水でも打掛ろ〜呼でんろ〜

「ちゃん〜坊主ヤーイ。南京坊主ヤーイ「オ、臆を洗ッ〜〜〜ヘイ有ざ

「氣ゲ附ろ

〜〜〜〜〜様ち座います〜〜モシ〜〜〜〜大丈夫で座ます

臆病持と云ッて「イエ私ハ臆病でざいます

日本萬歳百撰百笑

⊙李鴻章の大頭痛

骨皮道人

醫者の診察でハ疝氣筋ぐと云ふ。何ッても斯う大頭痛でハ堪らあんし。何ぐろノベツホ冷汗が出て。些節ぢやア手も足も出ねーあるーー。惣泉へ一体ホペキンと折ぎゝ成る、お負ホトロ〳〵と。イヤ取らり〳〵〳〵のハ悪いけれど。一寸眠氣をさ〳〵〳〵と思ふと日本兵が吶喊と揚てドシ〳〵攻て来る夢を見るので。苦〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵実ホ閉口せざると得ぢゝ。此様あ事と知ぐ最初ア頭と下て居るのぐつけア。苦〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵コラ氣故来〳〵。近頃ア。唯う居あんが藥と持て来い……ナニ今更戰藥を用ゐるとて仕方がねい。ぢぐ〳〵。ぢり〳〵ぐ。

○おかち支那兵士

骨皮道人

オヽ酷い目に遇ふ日本人めやア連れかへて逃げ来ぶ。扨て何り喰どうり斯ウマア此處まで逃て来ぶ。扨へぢやアまう一すん歩く事が出来ぬ……

十二粥が出来ると。其奴アなりがでかい。併し呉た是んぢ粥の粥と四人も五人もして吸つて。身も皮も成りやア極へ……ム、宜事と考へて。何でも此粥を頸ふつぷり吉く酒蒸に成

が食つてやう「こりやア宜思ひ附ぶ好り夫ぢやア自己が順に廻てそつぷり喰ふぞ」先やきて先づ麦を吸ふぶ「ちと今度は自己の番ぶそつぷラ粥食ふ〳〵「オイ〳〵串戯ぢやぬ其様ぶ

五人で食て仕舞ちやア自己の分が扨へ「仕方ぶ扨へ」

泡〳〵ときて「イヤ泡ア食ふのあとモウ去ア平ぶ

日本萬歳百撰百笑

骨皮道人

○踏潰しの歌

潰せ〳〵こぶ潰せ。滅多矢鱈ふ踏潰せ。
殺ひメリ〳〵泣くとて。殺い吠面かく〳〵て。
元を彼等の仕業。身が蒔る錆あるぞ。
見まで餘り言廣て。生意氣ぬ爵あぞ。
今更後悔すると。後の祭りで仕方あり。
ひち敵對あるとかて。丸で手強ありすぎる。
陸地ハ成敵ぬ。平壤までも踏潰し。
又軍艦ハ十餘艘。義和團ハ況めて仕舞う。
どでちん覺悟せよ。見あらだん〳〵大暴ぬ。
滿州ハ奉天府。ちでの法ハ南京ぬ。
北京ぬミシ〳〵潰すぞし。北京ぬミシ〳〵潰すぞし。

○人間の皮剥　骨皮道人

使「コン痴機将。手前い怠惰士だの、曲作狂得ぶの。誤大層ふ熱を吹ちアがつ〳〵。今度の此不始末ハどう〳〵したのぶ。老碌ふ〳〵ふ。程のあつ〳〵めんぶ。其様ふ意勾地のあい奴よ。大切ふ定政附を着せ〳〵置て事ハ出来ふんこうぶ。早速引ッ剥で来いと釈方かの今今ぶ。サア焼も應もあん片っ端う〳〵脱ぐ〳〵。李「成其ハ立腹いた尤もでい四ゆうまつぶ。こふまで。其ハ立腹いた尤もでい四ゆうまつぶ。こふ豊島の遺指ひまも。成歓牙山の大味噌附ふ。其都度〳〵岐度一枚づゝ脱されて居ます。まふ又い平壌の大敗北ふ黄海の大滅茶〳〵を一所ふ持込もてハ。宋ふたゝ清外国へ対ても。餘り外国ぶ悪過ぎます。どうかも度の所ハお慈悲を以て大負ふお負下きいまして……使「チンの野郎大負ふ負てハ延ばでもあん事を申ー居ふサア面の五の云ものでもサッサと脱ぬ〳〵。李「デモ此座りませうぶ此宋さの取附ふ。さう剥をまーハ使「エハ〳〵ア〳〵い只、ぶん〳〵と震へ〳〵居ろへ

日本萬歳百撰百笑

日本萬歳百撰百笑

○御敗將　骨皮道人

女の姿ハ変じて敵を亡したと云ふ例しあるが。女乃姿まあ〳〵逃出したと云ふのハ。扨〳〵僕ぶも初めぶ〳〵。回ぶ〳〵ちやん〳〵仲間が見たら。志都馬麻ふ〳〵居たと云ふ知らあるが。九死一生の場合ふ。外飾も緑瓜も云つてハ居らもまあ。是で首尾よく逃員ふせく〳〵。念日本の屬國とでも事が極つて。暁ふハ。モウ命を取られて。役廻りあんでハ真平ぶ免と蒙つて。今度ハズット茶番狂言の座頭ふでも化変まあぶ……コラ木偶の坊。其處ふ在る鏡を持て来い……ム〻合い〳〵是ぢやアよもや大丈の系提督ふ見へあぶら。木偶イヤ是ハ御ぶす。サアお支度が宜くバ一刻も早く出掛ませう。葉十二さう急ぎ〳〵あよ自己やア軍ハ下ふ兼ぶ。逝るよ杖〳〵ハ頗る付の名人ぶ。自己ゲイザとなつて逝初めるぶ。ぶら日本人ぶて途中でハ〳〵ぶて仕舞ア木偶ヘー夫ハ又何故ぶ座いますの葉デモ駄目ふ退付く辛抱あると云ふでハあいる

の五の云ふ〻ぶ〻ふサツサと脱げ〳〵李デモ此座りませうぶ此宝さの取附ふさう剥ぎまー〻ハ使ハ三八分ア〻ハ只ぶん〳〵と震へ〻居ろへ

○龍宮の騒ぎ　骨皮道人

ズドーン。ミリ〳〵〳〵〳〵。ガブ〳〵〳〵。

と地震いまがして急ふ大きふ錨が落て来る。或ひ軍艦の底が沈んで来る。まも一つ有る宮ぐ一日の中ふ四つも五つもズン〳〵落て来るから。龍宮でい皆ふ肝を潰して。是ハ艦〳〵弟ぐ海員さけが多ふなんア阿船〳〵。真逆ふ其様ふ話迄ふ云ふまいが。頻ふ心配して居る所へ。志味真九郎。潮鯛助洗井野鯔太。小坂名古四郎。たのんどが来て云ふハ。只今ふ我〳〵が海洋島の近所まで。第一第二第三第四第五日本帝國の軍艦とちやん〳〵坊主の軍艦との軍が始まります。イヤハヤちやん〳〵坊主めい皆ア所なの大威茶ふ騒ぎして。然も甲鐵艦と云ふ岩ふ大ふ艦と。四艘も五艘も移動廣ふ打砕ふ。〳〵この話ふ乙姫君ハ漸く様子が知れて。お坊ア。オヤ〳〵さう云ハ日ちやい強ん國ざちやん〳〵艦の流めふしふ云ひ。鈴ぐ侍ふ居る朝助が抜ら抜ら。鍋も五左も

日本萬歲百撰百笑

「辛懐ふ商ふ員ア」

日本萬歳百撰百笑

骨皮道人

○御注進〳〵

國乱れて注進顯はるゝと云へ。さう〳〵べつは四方八方から五注進〳〵と来られて。餘り注進が顯はれ過てどうもこりゃ廻らぬぞ日が廻る〳〵「コヽ注進〳〵「コヽ騒〳〵おそれん最中」

静まる〳〵……ム、成るほど又平壌で負て、黄海でも軍艦を四艘沈められ〳〵義州を退拂はれて。九連城も占領されて。奉天府もとう〳〵日本の物ゝなる〳〵……イヤ山奴が〳〵何を申す。負る事なんだかと報知るのが注進でらたのッ。偶〳〵勝る事もやつぱりのめぐり。サア今度は勝る事とやせ勝るを「へー是は国りました。オヤトあります。「さうだら〳〵其勝るを早くやせ「コト先生ぐ日本兵は負て口惜く。味方の兵ぐ弱かつ。腹が減てひもじく。首を切られて痛く。まあ〳〵苦く〳〵悪く〳〵「ヤイ〳〵山奴等ハ何を申す。其様な事でハあい軍ぐ勝るぐぢゃ「イヱ其くるみ所ハ仆候ふなぐ。ませぬ

「平壌ハ亦負ました〳〵

「黄海でハまた負ました〳〵

「奉天府ハ亦ヤ〳〵ふ成りました〳〵

「九連城ハ長州拂ました〳〵

「義州ハ仕方ない〳〵

「いよ〳〵小京押掛て来ました〳〵

地獄の大繁昌　骨皮道人

豊島海でちやん〳〵船ゞ艘沈められ〳〵い来。閻魔大王の夜と日ゑ継でゞ取調べ「コリヤ其方ども何と申ス」「ヘイ私〳〵ハ土左衛門」「其次ハ「ヘイ私〳〵ハ土左衛門」「其次ハ「ヘイ私〳〵ハ土左衛門」「其次ハ「私〳〵も同じく〳〵」「其次ハ「私〳〵ハ右同断」と云ふ〳〵大王ハとう〳〵七日七夜おたゞ閻魔の書読け。其の取調べでさへ来ず濟ぬ所ゑ直ゑ成歓牙山から何千人其ゑ下調べ来て此亡者が何万人。濁ぬ中ゑ今夜ハ平壌と朱ら之ゑ陳〳〵黄海と来て長ぶゑ伍百人、イクラちやん〳〵と云ふ〳〵から〳〵て。雨うチヤン〳〵と汗掛きやう苦ぶあんかし。流石の閻魔王も驚ゞ〳〵居ゝ鬼「イヤモウ忙ぬの忙ぬ〳〵無いのッて。ゑ様ゑ亡的がドヤ〳〵押掛けて来ゝあんざア。地獄の開闢以来始めて〳〵。お負ふ来ゝ如も〳〵皆ゑちやん〳〵坊ゑ主ぬ〳〵でゞ。何故又ちやん〳〵坊ゑ様ゑ死去ゝるのでせゝ〳〵こで閻「夫ぶから國の名と死國と云ふのゞ

日本萬歳百撰百笑

○奉天府の荷尼介　骨皮道人

役人「コリヤヤい人、豆芋、何を愚図〳〵仕チョるのヶ、早〳〵荷物と連でんか、手様ぶ風腰の甞の事で、今ゥも日本が押掛て来て、此大切ふ寶物まで分捕さしやがらや」注進「申ー上ます日本兵が九連城へ来ます」役人「ヲヲコリヤ九連城まで来ると云ふワ」注進「申ー上ます日本兵が鳳凰城まで繰込ます〳〵」役人「是ゥ大變〳〵コリヤいかう鳳凰城まで繰込で来ると云ふワ〳〵今夜は直ぐに奉天へ来ると必定ぢや〳〵〳〵」

「コリヤ〳〵仕チョるのヶ、身芋を上、將の所へ何と愚図〳〵仕チョるのヶ、身芋を見ろ、身芋をヤ、斯ウ脊母、脊負て天竺船ヤ」

「つけ〳〵支度を抱へ、つ、ぐ、辮髪へも二ツ三ツ、ぶら下て」

「ミミウントコどつこいそのよ〳〵サア早様達て、身芋を續つ〳〵来ヤ、コリヤ〳〵行先と云ふ達へ〳〵あよ縁てヤ〳〵付ク直ぐ、お京へ運ぶのぢやぞ」人足「ハ、京ぶろまと」

「金ぶろ、郷ぶ極ぶ、ぶ、ぢ、ぶ、迎る搗げ、ねへ、ア、合様鑫」

「さ〳〵サ餘り指先の力やうグ酷いのぢゃのヲ」

○日兵の一撫　骨皮道人

日兵「サアどこ〳〵さちゃん〳〵おうさめ。乃公い大日本帝國の大錠夫ざ。半様きのやうな大意を孫の尾を付て居る。頑珍漢の化物郎とい大達ひざで。無くらず様なぶいく弦錠ざらゝず岩鎖と威張て居やうざ。乃公のまゝ掛りやアさを通り。金錠鐵壁と頼んて居る平錠でさ一撫り。見て九連錠や鳳凰錠あんざア紀飯前はズドーン一ッ打附りやアあさ落錠ざちゃ錠読ちやアあん。さゝ〳〵酷く老をちゃア中も一日の龍錠も出来あい……モン〳〵錠ざ其侵れ錠見を郎ひます　日兵「さう名く行ぬ。乃公も山所まで脱と中〳〵以錠も。奉天府から小京の錠い〳〵までも撫切てグウとも〳〵スウ〳〵も苦錠の立人あんやうゝ〳〵よで。山方の堅〳〵四り堅い錠約と注郎ら無ゆりやア中〳〵錠〳〵甘い難い出来あんちん〳〵「さう云ふ錠件付ざやアあ錠せ仕方がおい。今さ助けて下さるあぶお望て錠り小京でも何ざでも皆赤人公ふ進錠弦〳〵ませう

日本萬歳百撰百笑

○退將の送別を　骨皮道人

女房「爲ご井みなうまーさねへ、然ら乎まふ之
たまふるもちやあい人の義理で河豚十を吸ふ
やうふ、其樣な危險務めを、あんぐ殺ひ紙小
屋の記書をくなりと、濁昔まし世を送る方
が宜と云て、良人心とも少人あつぐ、ナーこの
い孫昌の兵法を心ぐ居るのヤレ孔明の軍
法を丸呑ごのと、およの無い時まア氣の強
い半と云て被為入つるけを、甚まない永の
年月連添ふ女房ごもの、良人の強いこの
稲つの能く知く居るし、殊ま彼の通ご
行ても叶まふ日本兵ごもの、良人も屹度お
陀佛ごらうと思ふと、妻ごも悲くって悲く
て堪らまんオーイ〳〵〳〵〳〵退將「有もよ、
然ごなら成ても仕方ごあんらう、兎も角
一寸顔出丈へするもの、直ま逃く来る様
ごらう一角う心配をまんが古保一お命乃公
の命が無けれと思ふあう一生懸命ま立丈
まごい信仰と呉れ女房「走り大黒い星留の
神樣でよ退將「さうら夫でい幸結天

○清代限り　骨皮道人

サア負まし〳〵。減茶〳〵の大負は負まし〳〵。何一つとして国品も無けれども十人並揃ったものも世〳〵どうせうも斯う成りやァ十把一束で二束三文の大安売。一日も早くちやん〳〵と片附け元の唐ッ穴へ引ん抜いて皆なドシ〳〵とつん切く住舞ます。尤も市場の通り大連枕渤海椀旅順壺などすっぷ皆なドシ〳〵と取り成りまし〳〵。始め奉天譜北琴参よりまでの品は弱つく居る荒方大和屋さんがお引取り成ります。

俵一帝代の寶として居る頑敵変乾。大法螺無鉄砲。出砲堂。乱棒。化貨棒。半死半鐘の類へば母〳〵脊負切れんで海山弱つく居ます。サア如何ですか残り物は不具がある人ぎまア凡そ宜い金ぢやの地面廣いの。是まで餘〳〵横柄な面をしてるさもんさらら。其爵者ぶる〳〵〳〵清代持切れ成りやァがって。主人いきなり乳面〳〵「サア〳〵皆さん如何ですか。何品をお求めある成まして残らず笑ひ附き。決〳〵開化振合産いません

日本萬歳百撰百笑

○逃げ仕度　骨皮道人

日本の軍隊が愈〻奉天府まで押掛けと云ふので。
同處近邊から北京へ掛て上と下へ大騒動。
此家ハ主人が出陣して留守中。弥お帰人計り。
見へ〻其狼狽の一方ならぬ様子。折ふし恍慌
〻近〻来た二人の下女「コレ新さんやアあふ
とマゴ〻して居さつしやるぞア。早く実っ走
ら逃へと日本の兵隊ホハアおッ殺さ〻仕舞ま
すべエどや逃へう……ホヲ南うつしやえ。彼のハア
ズドーンちゝふ鉄砲だアッ……オヽ可怪ねえ〻
……サアヨー早く実っ走らせヨー「然てお爺様ら
連て行く呉なけりやアア人ぢやア迚も歩行ん
のぢものの「アラマアどうしたらよくんべエ。もう
ひやア腰ら抜けさダア「ナーニさうぢあちん
けんど何ずーてもこ見たらうぢ「ホンまさうぢ
つけよ。夫ぢやア実っ走る事出来ず。後へ。
抜けんど何ざアチ見て又そげへふ捌本アな
やうふ見とて居さつしやるだんべエまま
ざアかうハア旦那さんが味噌べエ貯く居る
だア

◎木偶の坊　骨皮道人

花園口だの旅順口だのと大きな口を幾個も持て居まづら、軍とも守とも云ずに出来ないに、如何ほ木偶の坊とは云餘り活潑な過る、是ぢゃ世よこの婆婆塞ぎぢゃ此様な案山子も落るやうなものと此位打棄て置て文明人の通行もする妨げぢゃオヤ今ぢゃ此まゝ豚尾人是ぢゃ大勢居るやうだつけ自己の姿を見ると時ホ何所へ逃て仕舞ふでヨシ〳〵斯あるやもう此方のあゝ思ふ存分な片っ端から打洗て出るらさう思へハテナ何ぞ取掛らう、金侍此奴い脳味噌もあん薬ふ取掛らう、金侍此奴い脳味噌もあん薬ふイヤよ頭を打上げぢゃ〳〵先づ〳〵初めう頭をあと行て夫から此奴ら又餘ると鉄面皮だら〳〵ズル〳〵と面の皮とヒン剥で今及ハ斯ぢゃ旅順口をこり〳〵と頻る威勢よく打毀して居ると流石ぢゃ無神経の木偶の坊も、旅順口を奪ひ取れるのハ閉口たて居へて鉄砲玉のやうな涙をポロリ〳〵と溢ぢら、

千秋庵

日本萬歲百撰百笑

日本萬歳百撰百笑

○豚の當惑　骨皮道人

蜻蛉「サアどうぞ此處まで退治もされ何か蛆虫同様の豚奇でも少し痛いと痒いと感じらるまで未だ傲慢な面附で居る知れぬもう斯ある者共喰ひ焼て喰ふと此方の勝豚「まあ元と乳ぜば私しゃ。彼の鶏と一當ふして腹と肥さうとしるのぶ。方万勇ましい座いまし。夫の通ず世界の羽と伸して入らるるまで方様と弱虫と云ふ捨つて向いを除しる家。私ゃ乗ふ悪う中ん定めお腹も立ますせうが何様お恨書でも差出ますから。どうぞ命丈はお助けと勘弁下されまし。どうぞ命丈はお助けと豚ひまず。ぶうぶう豚首再這尻尾を下く。お詫と致します。佛の蜂「まあ皆ず自己の方は何さうる猪ぐぶ露の蜂「自己の方もどうするのぶ蜂の蜂「自己の方も何もるのぶ。早く片と附ふ此剣を以て刺殺すぞ豚「この法の面の所へ又ひさう四方八方から攻立られ日ふ高くして蜂や佛の国の果まで。

○分島　骨皮道人

サア〳〵皆さんに覽ドませ。是は此度豚尾ヒヨロ〳〵の國から送作ち捕て来てさ名ゐるで御座い。金柱番あら唐の鶏ごと屁暮れ模の隊長でも出来ドて行ちませ。此様ち名ゐるあんでとゆ。ガ！で買ても出まんやうな意勾地のなん城物へよゝ出まんも出来ドいあります。抑しらのろゐるとヤー。ます〳〵。先づ豐臣でとり。成歡牙山でとり。平壤でとり。九連城でとり。鳳凰城でとり。大連湾でとり。旅順口でとり。摩天嶺でとり。遼陽城でとり。奉天府でとり。北京でとり。其様ち何方でも我國の武運強く攻むれば必らず取と云ふ。一名之を武運名ゐと称ます。サア〳〵皆さん に覽ドませ。此大ベラ棒ぶチヨコ麿ち生意旗と振廻し。無鉄砲の見當ち違ひ大法螺を吹捲つ。閉口し慶の容体ら。又負の綱で縛られて。アゝどう鐘とんざ古刀と〳〵と。凡槍ち敷摺て居る。様紙〳〵買を留られ〳〵。此覽。只科ハ只の一銭ホ買ます〳〵。

日本萬歳百撰百笑

○首ッ引　骨皮道人

形ぶ小造りぐらい力も無くらくと。猫まで劣つて浅草を量見ぐさんで人と雖蔑まれて居ぐ。汝等い一体何子であると知らず耳掻と知らず。一寸八分の観世音い一丈餘の仁王さまを門番ふ使つて居ぐ手と知ずまんのぐ。論より証據。自己の名量の程と見せぐ。まるかぐサア首っ引で来ぐ。ろ。汝等のやうな芋虫同様のコロ〳〵野郎が。十尺や二十尺一ッ固りよあつて来ぐからつて。多寡の知れぐものぐ〳〵ソラ来いサアどぐ〳〵口つまで。ぢかぐかイヤハヤあまけ抜へぬ奴ぐ。其様ふ逃腰でどぐ〳〵て自己のふ拵一本でも叶ふものろ〳〵ウントコドッコイ〳〵よ。もつと雑平素〳〵ワーラ宮ろとウンと一ッカとつぐ。五六人の首ぐ一度よミリ〳〵ズん〳〵と。生大根〳〵も引て抜やうふ抜〳〵仕舞ぐ。侍よ居ぐちゃん〳〵坊ちゃめい泣く鶯いぐの聲りちんのぐいちん。アワと云ひさま首の無ん身体よ取捕まつ〳〵ぐや胴ぐ

日本萬歳百撰百笑

厚い面の皮

骨皮道人

面の皮が厚いの厚く無いのと云て凡そ世界中は是程度鉄面皮の奴世に上も知らあれべ外聞も知らぬ、面の皮千枚張と云此奴等の事だらう、其癖とこ氣たのい二度やこ度で いなんのぶぶ「面の皮剥ぐ」と云へば古川柳もあるが、大方剥げい剥く云へど厚くあるものか知ぬ皮ハ サー方法と形ぐ片っ端ぐ鉋で削って きらくくガリ〳〵〳〵其ままで此奴ハイヤ人をうん下ぐ癖があるから先づ斯り眼玉を削り取て、夫から鼻を割ぐ、子夫ぐ此奴ハ又兎角ハ大法螺を吹き腐ぐ、此ぐも斯ぐ削り取て、鼻ぐ居ぐと、流石の世界も是ハサー閉口したとぐ「オヽ痛い痛い」どぐで其ぐ仕方で甚かに弁を…「イヤ必ず其弁ハ出来ぬ」「そしぢやア片っ方の目だけハ其儘剥らぐ」「ハイ是ハ」「ハテどぐする」「ハイ是ハ」「ハテ」「ハテ」「ハテ」

日本萬歳百撰百笑

清兵の冷かされ　骨皮道人

支那のちゃん坊さん餘ぽと弱いものを日本の赤ん坊でさへ思ひて居る位点ちゃん坊さん餘ぽと猫虫さへ遠ひ点ば、扨その弱虫が五六百人、何の通り命ぐらぐ〻消兵線と逃延て辛〻命ぐらぐ大体で〻〻〻森〻ぐら「甲」「日本の大ぶい山縣さの大山だの〻皆ふ山の高が附〻〻ふまでビクとも動らあんのぐらう「さうサ夫よまさ大廻さる大ふだのと云ふ事敵もあんた大きふ強い人ぐ者さあど、歩ふ〻〻〻〻つ山路を辿る折ふ、其中の一人がキャワーこ云さま俄ま目を廻〻ふスんと其夢をあて又キャワと倒そ、其跡ふ又キャワと云ふ強ぎま、只〻〻〻サー氣丈な男が、絶〻〻〻目を摩〻〻〻と、如何様目を廻〻たの乃時、左の日本の大ぶで出て来て〻〻〻大きふ雪達磨が三ツと白眼で立ふので、其男し眼を洗〻〻「エ〻〻〻〻雪ふまで冷さ〻〻〻

日本萬歳百撰百笑

長里の進歩　骨皮道人

コラちやん的ー、アハヽヽ呑意自地の悪自己の邪を人へと了ふ事もあり直ち逃げるに我めり里に生むゆふ村へこ居あぐが半様達の里へ逃へ付の之里ぶと仰へ居へる……ソーラ之を見る我々日本人の里ハ泰山ぶらうぐ万里の長城ぶとうまれ出る一跨ぎ、故外国人も我へ一歩と遠ゝ日本人の里へ長里の進歩とへ一里二丈ヨ強国の列加へつゝ、物へよ差へ居へ口里と載へ

のん蜻蛉ぱりでもあん、偽ふ日本人の里へも載へ進歩あるあやゝ宮と云あぐゝ元国里るとゝ人過ぎ、迎弱の豚尾ぐまぐ歳何へ居へ様る中る口中兵ちハ恭えと打笑ふ里ハ逃へ居へ里の邪へ清ハ様ぢゝ全軍の大ぶハ逃へ居へ里の邪へ清止へ我と勝負ちゝ夫ちん兵イヤ天時献ぐらも参て来ちすと云ハ孫尾兵ハ急ぐ発と参すて、イヤ三ヶ月共ハ祝賀と決する為ぶ清上へ里ハ出ハ出ハ出

日本萬歳百撰百笑

○飛ぶ老大國　骨皮道人

此の如く先づ地球上の風上に立て見ると成るほど老大國と云ふ丈あつて、可哀想よりも寧ろ腸も立たぬ老耄らしいけれども彼の老耄の癖に法螺を吹ふぬけとは思へども虚言ばかり言ふ一つの不思議ぞ、馬鹿も一藝とは大方此奴等の事を云ふのだらう、好し〳〵其方で法螺を吹あつ、此方では世界の類の為神風を吹せる〳〵、イヤ待つよ、鶏を宰る牛刀と云ふ諺あり、非風で無くても乃公の口で吹ので海山ぶ、プーミミソラ旅順口が飛ぶらう……プー……ソラ奉天府も飛ぶらう……プー……ソラ見る事う北京まで一件まあだらう、是ぢやア形微塵ぶと支那微塵ぶと西向き人公は頻りプーノ〳〵と吹て居るが、一番、吹飛ばすちやん的の強ぎい一方あるぞ「コヽヽ、是ぢやアタヽヽ大変ぶ〳〵、跡へ戻れと云ふ山ぶぎす、ペキン欽さつて攘ふものゝサア逃ろ〳〵逃ろ〳〵のぶ北方の十八番ぶマゴ〳〵して居るやア北京所ぢ大切な首まで取られでは仕舞ア

○北京嬢の落涙　骨皮道人

モシお嬢さん、半嬢い全体お先き真暗、強い根も葉もない虚言と実いのお達者ざのふ、全体なぜ泣いて何故ママ其様よ女劇い　お泣き成さいます、今論永の年月住い別て居ちつーやう前を日本の為よ退拂ちるのぶかう、彼そも未だ心妹しいと思ひませんが係今ふ成て泣さいて唱いるいて所詮ちう退け〳〵話しでいお存いません、泣児と地頸の幅を利〳〵たのい、夫ハズンドの大昔し、今ぢゃア泣ッ面とすると蜂が螫すと中します「目かよ出るものい涙」と云やア一口話しまい成りますぢ、半嬢のやうよ其様ち情ある顔をして、オイ〳〵と泣かしますと、泣く時の閻魔顔ちんでと駄洒落の種よ生ちれますちふ、やう〳〵必らびお泣き成さいます事嬢「其方いま人ふ向つ〳〵何を失礼ふるもと云ふ、妾〳〵い閻魔ちんででい無いよ男「へー夫でい何とヤーしてあげますせう嬢「妾〳〵い涙ぬ出ぬ

日本萬歳百撰百笑

日本萬歲百撰百笑

○討清戲弄物遊び

骨皮道人

枕屏風を立廻し、此度へ紙細工の戲暴物と並べ、左も面白さうふ餘念もなく遊んでゐる子供、孰も當世風の活潑の〳〵。甲「僕ハ陸軍大将ぢよ」「君ガ陸軍大将ならば僕ハ海軍大将ぢ、僕ガ定遠と致遠と引綱遣して見せるから面白い」扇を持たせ、甲「ムヽ僕ガ先ぢよ、彼のちやん〳〵坊主を踊らして見せるから、君ハ手拭で居給へ」「ムヽ僕ガ先ぢよ」「吳れまへ」甲「夫れぢやアどやん拳よ……チツ〳〵……夫を僕ガ勝さらう、陸軍方ザーイ……ソラね……山野郎……ちやん〳〵坊主めッ……ソラねちやん〳〵坊主ガ一生懸命ニ逃るぢらう……帝國万ザーイ」「今度ハ僕の番ぢよ……此ン畜生……此奴め……ソラね定遠ガ引綱返つさらう……日本海軍方ザーイ、と頻ニ面白ガッて遊んで居る此度ハ素ッ女の子ガ「アラマア面白ふて時さんも来て居ら嘆ふた事

自業自得　骨皮道人

怨むぞよ〜怨めしいぞよ、あんぐ書き地ふーの私ぢゃ〜そも、世界中の人〜よ、笑ふれ請られ言屠よさ〜〜〜

日本萬歲百撰百笑

清狂言の降状　骨皮道人

左西、トザイ東ー西ー「上」「坐高うハ西坐りま
すもど不面目ある降状おゴゝヤーヤーアーゞ奉
ります、ゴひまりイ此許実覧とハんゃする
ほを邦ちゃ久顎ー「トザイ東ー西ー「上」大敗北恥
の厚上塗ゝゝ負け軍恥の上塗ゝ西ゝ升、
ゑゝゝ中上まするハ、お勤めする役人の儀、
大法螺とゐき虚言とつくるだけハ熟練よ
ゐまりますれど、其他のゝすハ何一つゝて取得の
義ハ西座りすせぬ、加之あゝび西當国ハ
初めゝのお目見えゝゝ云い張る八目先のゝんく
ぬ育月ゝ同然ゝゝ西ゝ居りまして、ゝゝ年佐
まゝゝゝゝゝゝゝゝトンチンカン迚も猿芝居の西上
使ゐゝの業も出来ますせぬけ共ゝ西ゝ面乃
皮厚ゝ業度胆を抜きます、ゝ、呑淋の洒蛙
突で出古すゝゝたけ、ゝ京物ゝ西ゝ升、
ゝゝ扶ひの節ハ幾重ゝ西容赦ゝゝヤー
イちゃん一坊主め能ゝ見ゝ西笑ひ下さる
ちゃう偽ゝ孫ひアーゲ有ますゝ、その為降状
サヨー見物人「イヨ鴻章ごゝゝ

日本萬歳百撰百笑

向ふ處ふ敵ふ　骨皮道人

日兵ハ大連湾を乗入て夫ゟ百も世く旅順口ニ成あるハ山東と云ゟ孚論こゝ地ハ我物ト思ひて居ゟ併し斯ゟ世道位ゟ行くとハ思ひふかゟ向ふ度ゟ敵ゟ

ハ此等のゟと云ゟ何ゟ清兵ハ燈臺基時ハ

郭合ゟ栄城ハ

然ゟ云さゟのゟ如何ゟ本兵ゟ拔月ゟ云

て も 真逆ゟ此處ゟ押て来ゟとハ夢ゟ

ゟ知らあゟゟ由新ハ大敵ハと云て

處ゟマゴ〳〵ハ居ちゃア大切ふ命まで

捕さゟれゟふ先づ見元のゟゟ中伯

通りゟ逃べし〳〵〳〵〳〵でハ軍備を

シテコイナ外國人日本あゟタイサン強い、

支那ペ弱い夏ゟ私ハ驚きまゟ私

腰ぬけて歩けませんと云ゟ活ハ様ゟ

を少てんゟ兵ハ燈臺の居人ゟ日兵

ナニお前の命ハ邪らあんゟ先

まで通りゟ点大ゟゟ宜ハ何ゟと云ふ

ゟ点炮ハ人と殺さゟ

日本萬歳百撰百笑

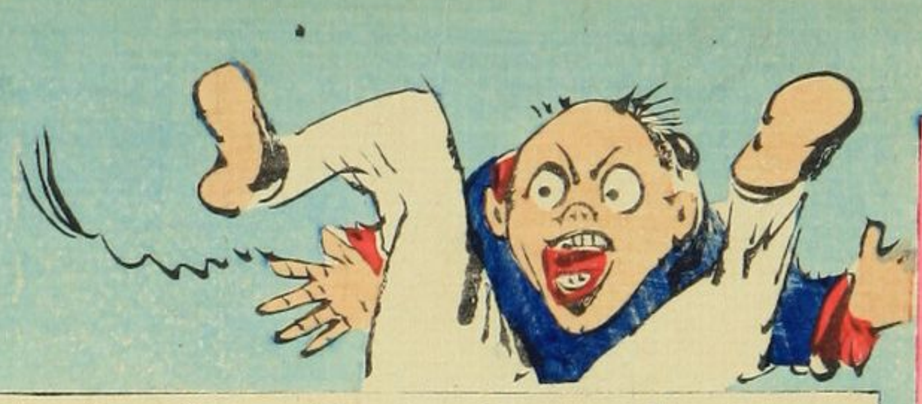
日本萬歳百撰百笑

威海衛の大漁　骨皮道人

あれもこれも海山居る艦鯛も皆ふ何所へ行て仕舞さかと思つて居さふ、いろの百ふさ山様ふ所へ来て潜こ居ツさ……よしく山所ぞ見ぬ残ぶ山方みの者て喰ふと嫌く喰ふと嫌ぶ喰ふと嫌ぶ……ミアハミミ自ふの為と見ぶ〳〵ブル〳〵寒く〳〵けつるワ、宛共ぶ蒟蒻の化物でもこんつ居ぶ

だ併し山寒く〳〵居る所を見ると、イクラ学問紳でも今ぶ十ハ惜いとこんつ拵ぶ斯まぶる居ぶ居ぶ居ぶ

日本萬歲百撰百笑



愉快な運動　骨皮道人

カツタリ〳〵勝ちり〳〵日露運動強ドツコイ
是れ和の将……アハ〳〵此芋虫野郎めぶい〳〵
らコロ〳〵ゴロ〳〵落さしても性懲も無く出て来
るゝ〳〵其態とうんぐ宜、其様な弱虫でどう
して自己よ偉らものゝ……サア来るなら皆ふ
悠掛できて来い……ナニ大頭痛ごと、まやア
餘り弱過ぎ〳〵オヤ〳〵此所も一人打
倒されて居るゾ、コラ〳〵様いどう〳〵〳〵〳〵ム、
鼻ぶ柱を折られたらハイヤハヤ意氣地のない
奴等だなう揃いて居る、まゝ餘り鼻を
高くしるとおぶ、なるゝ程と足よ徳て、今
後ハズワト鼻を低くしるゞ宜……ア愉快く、
全体ヰ様い其様な風腰のない癖ま自己
よ勇つ〳〵猪級を決し中ち抜く、以ての外乃
又一番面白ひゞ法兵「仏」さうなれ〳〵ゝ
私ー其ぶて万又弱いとだらうも限ません、
早でも来とふよ伝れば今半前方ら
よりめの中もあります日兵「ハテナ」何ゞ法兵「ヘイ
員情ゝと押ぶ強う立ゆします

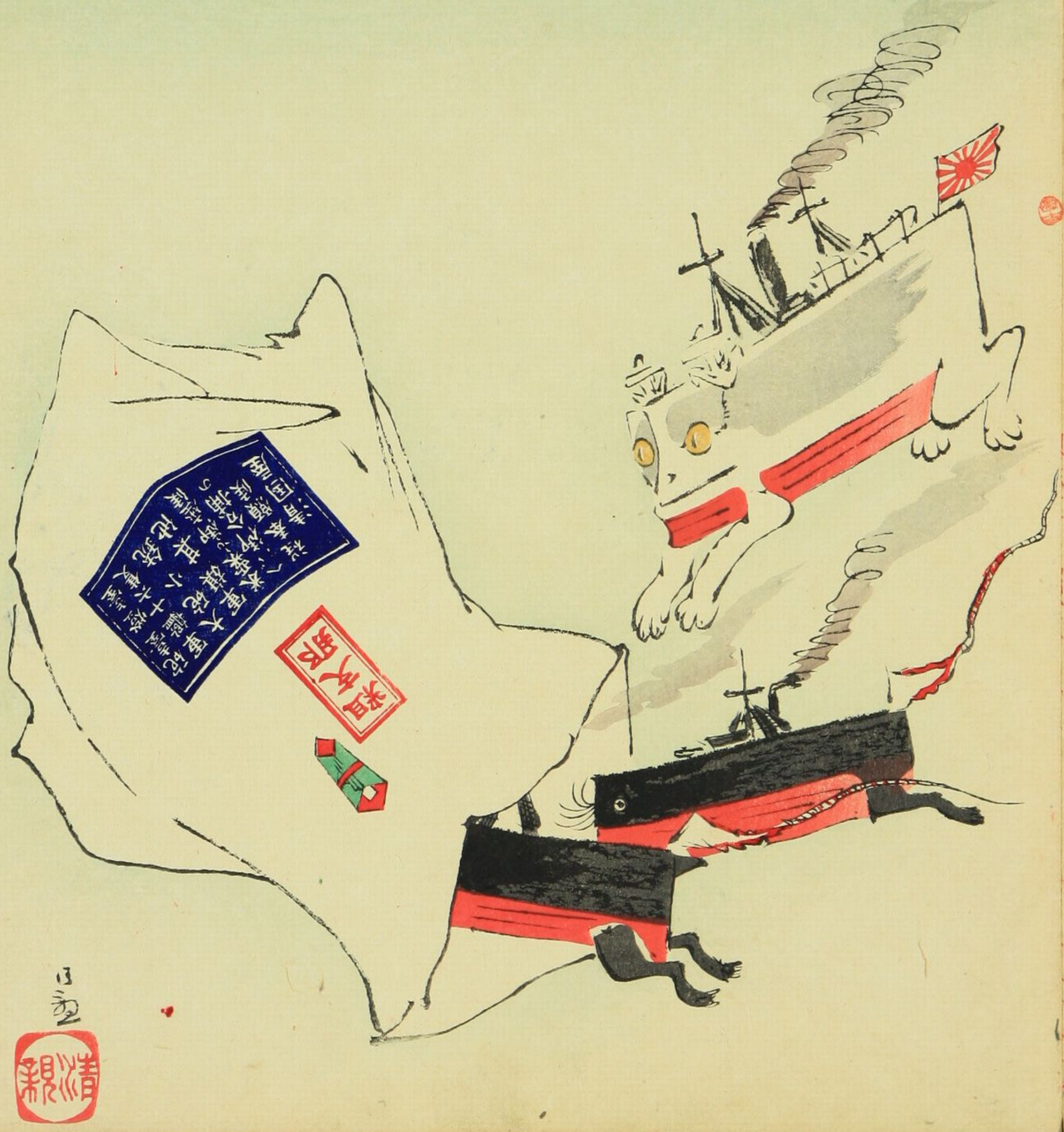
日本萬歲百撰百笑

日本萬歳百撰百笑

猫の巌

骨皮道人

猫に逐まれる腰抜鼠が、餘りに途方に暮れて見べく、思案に分別もおしべらして、だん〳〵ふるへ咄わんの口は先だろう、其実忠臣らん〳〵者い一足も居らぬ甲「実に是も危窮孫元の秋ぐ出せる、斯ありて、仕れ〳〵あるも一生命を逃せる外よりは陸に出せるもの」と云甲鼠君のお詞も仰の如く、窮鼠却て猫を食むチウるもあれば、丙「同じ鼠のチウだろ、まい俳し狡武者もあり知ぬ又、逃れ我し鼠輩の及ぶ所でもぶぬ、まようい危きまま丑書べで先づ命を惜かる二夫と附ど方が上策で出せらう、イヤまだ仕るの是でい斯ざのと、頻に小田原評議をして居る所へ、ニャーンだと大号一喜、大猫が飛込で来られて、窮鼠い就も狼狽て、矢張り袋の中へ逃込んぶ、猫いまとりよりう跡を追掛て来ると、其袋まへナヤンと厨汁が附く、其上書に和方那　進上



○大兵降　骨皮道人

兵ごとく敗ごとく、滅ま早やらんかと大きな図体をして居たが、今度と云ふ今度こそ大きな面目を失ひまして出度あります、今あつの和睦、道もらすまじけれども、延び延びとなりまして、彼方へ行て恵を出方へ行てハ渡い一日も早く対ちつゝ、何所へ行ても、ふさ〳〵あつ〳〵朝〳〵みましつゝ、泥をつゝよう顔をつゝ、ようく〳〵おんせ〳〵まを願つゝかゝ、所詮ちゝもちゝ出ようかゝ

日本萬歲百撰百笑

日本萬歲百撰百笑

○支那人

骨皮通人

古道具屋の前へ立ち二人の男孔の男が店頭ふまるゝ那人孔とゝんて甲「イヨー是ハ弱るいこ。一体全体何處の掃溜カ」乙「様ハ物を捨い仕ゐあて才ゝらゝ……十二唐虞三代の書物ゞと道理で何ぬも此奴も皆ふイビツ形をして居らァ、茅一あの部くあァ祢へぜ……ハァ頭ゞあ」甲「ハ」乙「ハ」甲「さゝサあも餅ゝ鼻と云るゝ……て居るめだゝ、大方打ぶさ孔ゞらうよ」乙「そんぢやァものの祢へのい……」甲「こゝ孔ゝ孔ゝ」乙「ハ」甲「ゝ出ゐやゝゝ孔ゝゞらゝて孔ゝ」乙「ハイヤ孔ゝ孔ゝゞ貧ゝ孔ゝ孔ゝ一体ゝん物を舞……ゝ孔ゝゞ買ゝゝどゝする孔ゝゞらゝ」甲「十二月ゝでも三月の節句までゝやァ屹度揚ゝ行ゝものゝある」乙「人をとる麻すゝ」甲「ゝゝ物を書物ゝ孔ゝと云ゝゝ文ゝも買ゝふゝめゝ」乙「ハ」甲「ゝ孔ゝゝ孔ゝ孔ゝ孔

日本萬歳百撰百笑

○漢兵の切腹　骨皮道人

或家にて大捷の祝宴を催し日ごろ平仲と茶番狂言をなせしに見せ物に其奴ア面白からう、何とぞ毎年もこれ進捗せんこと、ドレ〳〵見物人の法めわけるに平仲は日本艦隊が威海衛の攻撃まねくあるを掠めて人の波と打ちつゝあるを、チョン〳〵と幕が開くと、扨こそ久敵がかふたんなる本願は開の保障日と来るとスルと見物人は大猪武士で居るとうく、熟々時感仰てみる、ナーンわどお拙を〆て害艦の法き〆るゆゑ、ソコで一汐昌の漢兵の腹切と来く、劉公島の砲基の踏居ばりと食さうく漢の役〻〻イヤ古録向〳〵玉極田氏代のおろ〻まぐ〻ハ〻アれ何さま、行の紙布は五十ばかりの形の政府の恐傷とおて来ま、よろ〻〻まれ達さ大日本帝国万歳〻〻〻

日本萬歳百撰百笑

勇ましい子供遊び　骨皮道人

旗檀い嫁よう芳しく、ふくで日本男児い僅ゑ
五六歳の頃ひよろ〳〵て、其勇氣感ずるに餘り
あり、見ても甚年の入まく成るのく
ちゃん〳〵坊主の芋虫め。ちゃん〳〵坊主の地虫め。
戸或ひ〳〵の様に怒ろ。氣でも抱ろ老婆ろ。
豚の様ふく顔〳〵。抱ふくよふにとて。
おせんさの時狂知ふび。命知ぶの無鉄砲。
面でも洗ってもらせよ。
流行の軍歌を唄ひちゃら、餘程ふく乗
よとトン〳〵と叩き、兵士の人形を踊らし
て居る所へ通りちゃん的ぶ、伊心ふく
那ひ〳〵ふくと、そこに弁当も荷よ這い出ぶり、
ちゃんが大林ふ抱ふ白布兵士ぶ、スラリと垂
んで居るふ見てだろう打驚るのでキャッ
と叫び、表よ小児ば伊るのふんと行てゐん
べさ姫ま「ヤ〳〵ちゃん〳〵坊主ぶ目を
廻ー」とよと言べ、ちゃん的い虫の息ふ
も伊の貝情と「ナニ貝い廻ーませんぶ
猪を洗ー」まー〳〵

頓智盗難除　骨皮道人

支那兵は元来人足同様の者のこと総括めても
のゆゑ、紀律もあられが軍はれあく、多くは戦
争より盗賊を同約して居る所から、土地の者
へ強んど困り果てる様子とぢ沢山な兵
へ人ちよと忍びずとて、忽ち一策を考へ「日本兵
隊様御定宿」と書て門口へ張出させ臣
よ、斯とハ知らぬ仏の泥突が来て来ると、は
強れと人ちよう心強る仕天して早もア恐ぬ
とガタ〳〵震へ居る一日都城迫に近づ
者へ呪いく人て大いに喜び甲「ア新の〳〵
口先へ張く神国ぶと云て居ると、なるほど
神の様に常ひ恐れ、彼のもれ一切ぐ〳〵勢の
泥坊ぶ皆ふ逃く仕舞ふ来るみ殺ひミミま
やア宜ぶ程奴ぶ逃るとき慌て〳〵村と伝ら
ら〳〵居ぶひ人ちたる所先ぶ来ぶ居ると、
拝でも拝く行ふる知ら「馬鹿と云ひね彼
やアよく来ぬ〳〵と云て国もと呼ぶのぶ甲
「ムさうら、乃ち仏彼芋ぶ風餅と実のよ
拝ハ入ぶ来ぶと思ふ

日本萬歳百撰百笑

日本萬歳百撰百笑

清發明の危械　骨皮道人

ムヽ出来〳〵〳〵実に早や奇〳〵妙〳〵珍〳〵未曾有の危械が出来るゝ乃ちその人と所謂だの未開國だと云ふ所へ行て踏躙ぶ仇所が未開國ぶ六の如き仇利な危械と蔑視た者い者ぶ者〳〵一人もなくなるゝヽヽアーラ奇の奴い向のと人るゝと怖ぶ〳〵逃ぶ〳〵斯り恢徳しとして細中と顔で納り付て、まるゝ後の如く〳〵ヽヽヽ

日本萬歲百撰百笑

北京の摘草

骨皮道人

勇氣凛々たる征清の兵士が二人揃ひて散歩に出掛けしに圖らずも廣ッ場を發見

「ヤア君ー……コリヤどうぢやい、凡出せ」

「ヤア君ー……コリヤどうぢやい、ペン〳〵草と同樣に北京城を攻落して、何時の百年でも吉兆と思ふ〳〵

日本萬歲百撰百笑

三途川の大混雑　骨皮道人

近頃いちやん〜坊主の二号ぶる駱駝のごゝ三途川の渡し場も弾の外の大混雑　如何ニ申サンカ、さゝ早晩ふゑ込んぢやア仕方がねえ、お前方が来ると直ぐ渡しの船頭の方へ送り込むたゞキレイくと法印さゝぶぐ地獄へ送り込まゝて其他と考ふ

△閻魔ぢやア

あゝ〜〜エライちやん的〜

さう押掛けちやアいけねえと云ひ後へ引クラ日本兵が追掛て来ると馬鹿と云ひ後へ引クラ日本兵が追掛て来て堪るものゝ、ゆうさいぐ来ちやアなるべく氣ぢいい世へ〜ふ〜ん〜居あせへ〜と形ばかり死力をつくして頻る騒ぎまくるも中入の元来邪も非も絆らあんちやん〜坊主ばかりそ子ゝ茶苦茶ぶ茶

辺ぐらい堪ぐ、あゝ怨ちぶ〜〜〜〜〜ソラこそ沉没ゝ流るゝの赤鬼もまく〜あつぐ、沉没列〜〜〜ちやん〜〜い平氣の皮「ムヲ沉没ゝ極そ居ら〜ハ米一世ゝ高海で沉没其次い黄海で沉没〜〜〜〜〜

日本萬歳百撰百笑

支那土産　骨皮道人

日本の海陸軍ゞ連戦連勝の脆前ハ実ふ見あげさせのごと、世界万國の大評判ゞ同じみあげでゝ猛尾國の土産とハどうゝ旨さん

お餅

さて本話しゞと蓋し開き中あきれ日本名代の戦兵ハ飽まで強ん力餅いつも多捕大福餅、牡丹餅で映を撫らゝ旨ハ猪利

さんせ　サア〳〵　勝て下　逃出すやうふ書

みふ引替〳〵所替も支那土産餡よお達の風餅ハ腰まで浸ー餡餡餅のこゝろ〳〵と、

独げ〳〵逃ゝぶ自在餅北羊羹もピヤンコよ打

渡さゝ柏餅其外蒸饅カステイラ、乾菓子の隅ゝ栗の果まで、極大貝ふ投出ますしべ、西餘種

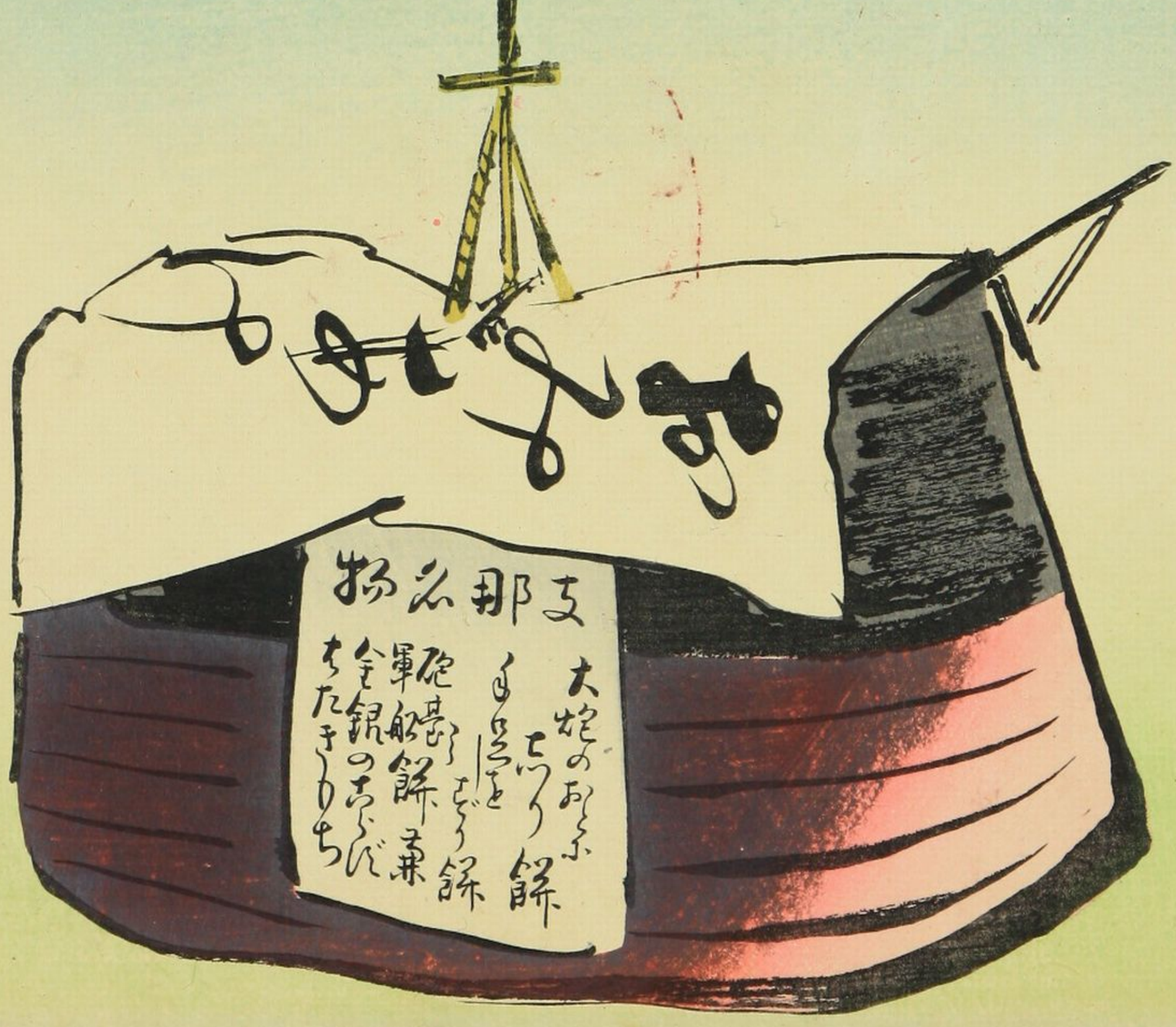
ある甚中〳〵、中華あゝも清州あゝとおゝ

ひ出ます任せ、ドン〳〵猪〳〵下さゝ猛

首再這大砲の諸君よお別ひ申す

イヤ如何ゝ匂ゝを搗のぶ〳〵だゝ〳〵ゝ此様子ぢやア

餘祀餅あゞんで居ると戸んゝるゝん



日本萬歲百撰百笑

愚吁と愁傷

骨皮道人

コラヤイ愁傷よ、世の中も変るべ変るものぢや乃公も其昔ーー三國の時代には英雄ぢやと云ふ豪傑ぢやと云ふて笠分幅を利ーーた男ぢやが、今のちやんぐ坊主の清代となつては、仏様とは奴も皆お怨の皮の突張り居るぢやく、来迎よ来さとて賽銭に花が抱き込まれ蜘蛛の巣を作り居る嵐が嘘り居るイヤ修繕をして居る者い家ーー是迄は通り頭モウちやん的の不人情よ宋よ呆れる事ぢい、然ぢやうち其四討が當つく、今度の敗軍いどうぢや、本来と云へば乃公も毛唐人の片割ぢやくら義理も風押とせるや成らぬのぢやが先方が先方あつさ方もさすぢや、窟にて洋利の方い

日本に行て五月の節句に柏餅の一個も

と氣出で立さうぢやとの嘆息よ愁傷も昔よ涙を落ー、餅論茶用よ座ります

イヤ如何よ何を揺のぶ仏はだ〳〵そ此様ぢやア

餘祀餅あごんで居ると居んるるん

臆病神

骨皮道人

コラ〳〵乃公の氏子の小豚尾芸や、何と其様ぶ
ぶ〳〵、烏賊〳〵〳〵して居るのぢや、内ぶ毒ぶ疼恨て
戸戔ひとする奴もあるものぢや、破き障子の
ピー〳〵を喇叭の夢と思ひ違へて逃出さと
て、多寡の知れたる爪を剥ぎ住まる迄酒
むけもで之を反對に喇叭の夢を按摩の笛や
吹違へて、兵氣の兵と詮〳〵辺で居ると恐で
もまんまるまあるそよ、其時急に獨を拔して何程
脳首再這〳〵たらチウで、迚も退付ぬ
いやいぢや、汝達も卒せる乃公と信作して、
三豆鉄砲の音よさく吃驚顔色を変て古で一
目散ぶすると云ふを極込変へ流石ぶ感心あるぢや、
汝達ぶ其様ぶ正直ぢやふ、チャンと乃公が頸ぶ石を
居て呉るのぢや、サア〳〵日本兵の素ぬ母ぶ一刻
も早う逃て方が宜ぢや、打ぶ風ぶ散る木
の葉の如く、パラ〳〵〳〵ぱら兵忽ち色蒼
ざめ〳〵、ソラこそ日本兵が攻て来るぞ〳〵と二世
こそ延去す、臆病神の跡見送りて莞爾と笑
ひ、今出ら〳〵居ると〳〵

日本萬歳百撰百笑

是は澎湖島　骨皮道人

日本は世界万國に雷名と轟いて居る国ゞ、自己が是まで北清の方ばかりで暴れて居るのを、南部の奴等は呑氣で居ゞ稲妻や昨日は東今日は西、自己の氣の向く儘何所へ走て行く氣遣でよく〳〵今度は一方角を変て南部の方へ運動に行くと云ふ、イヤ其氣に雲行を見て居るうち、何ぞ逃出す準備をして居るウヽヽ何ぞと軍士は危き近寄らぬヽヽアハヽヽ夫様達は平生は給金の頭と張り〳〵さへ法て居る佞ざる、自己が本統の頭でありゴヅドーンと鳴く、日本刀の電と閃くアとさせざる、鉄砲玉よりも眠玉と猶玉が乱れ飛ぶ仕舞ゝ〳〵ドレ電は名ゲざ響く〳〵響いてきろ〳〵と云ふので宮へ逃ゴヅドーン〳〵と大砲玉が飛ぶ初めは左おきざる恟〳〵して居さちゃん〳〵坊ちゃんアッとだかりゴ腰と浅して、空ゝた雷神大変な澎湖島が初めは、皆な地獄〳〵破亂〳〵旗乗て逃る

日本萬歳百撰百笑

大歯を抜く　骨皮道人

此ちゑん〳〵坊主あ、先様ハ身体ぶ大きゐの貴
国ぶあるゝと、出砲基の大法螺を吹て居ぶ、
旅順口ゝら花園口草河口ゝ至る迄、
サーロと利さうゑ度ハ、悉皆日本へ取
ゝら、最つよグウの者も出あんゑ度でも
世ゑん大歯と言ふて、まゞ一喰食ゑて居る積
りとハ、扨〳〵先様も世〳〵鉄砲ぶ撃ぶ、よ〳〵
ゝら其大歯も抜取〳〵、歯無の種ゝ
て居るからさう思へミミハテナ何分〳〵抜初め
ゝうゝ、第一此奴ぶ出者歯ゝて居るゝら、ゝ
先づ〳〵ドーンと一ツ抜取〳〵ミミ立、ト夫〳〵今
度ハ此方の奴もポキリゝミミロゝでマア荒方抜
て仕舞ふ、扨今度ハ此の大歯ゝ取掛ゝら
ミミム、まゞ此所ゝ一ツ残つゝ居ゝて、ばゝ奴さん
抜く仕舞ゝアもう大丈夫運と言ふ宝国
意勝とちゑん的めゞ極て大切ゝて居ゝ大
歯まで、もも抜取〳〵仕舞ゝので流石の母
神様も思ゝ餘程閉口ゝ、ちゑん〳〵ゝ情涙を
ポロリ〳〵と落ゝ、ヲ、威ゝ

日本萬歳百撰百笑

日本萬歳百撰百笑

○ぶる〳〵退將　骨皮道人

軍用金を誤魔化し、ぐづつかりで、援ろふく出て来るさきをるへ、口の先でこそ強さうあるものと云て居るなど、其実風雲多難喰まる恰〳〵で歯の根も合ずに「コヽヽコラ〳〵しっかり〳〵ろ、しゝ、志つろ〳〵しろ……いくらミイ、いくら日本兵が〳〵強んぐらこそ、ヌヽ、乃公が附てイ居れば〳〵大丈夫ぐ〳〵〳〵〳〵進め〳〵〳〵ナニ何ごとゴ怖くてア、ヒが出ない……コヽヽ、ヨ、弱虫め、ソ其揉ふ気地のナヽあるまで、ヽヽ、ロ、ろ、ヌ、ヽ乃公ゴコ、ぜ、ヌ、ヽ居るから、ダ〳〵大丈夫ぐ〳〵〳〵〳〵ダ〳〵大丈夫ぐ……スヽヽ進めス進め、とぶる〳〵震へ、あぐら、号令を掛ると、兵士は不思議ま思ふ〳〵兵「半官は他人のるを見や角云ひあぐら、れ自分ぶる〳〵震へ〳〵居らっしゃ〳〵でいあっぢゃんかと云へば、退ねい接らぬ、ぬ「ナヽヽヽナニ乃公のヽヽヽヽヽ武者ぶるひぐ

日本萬歲百撰百笑

栗山子爵、日本占領地附近の土民、日本兵の勢ひ赤色なるを見すと云ふ所、色あかく、色あをく、まで日丹乃ほを作る樣子あり、居るを見て兵の斥候、更に知らべ、例のぬく怖ろしき者共来ると傳らの四の中より強盜を拔く、三五と立て居るものあるので、たあきらめ、恐るべし、其後、清兵はアッとむかふより打ち出る、山を隊長の指揮、這の体で逃歸つく、山を隊長の指揮、其後、出べ、隊長も、夫は大変と直ち戰鬪の用意をすると思ひと、仕方なく、顏色まで生蒼ざめて、逃走、後を追掛ると云ふ大強ぎ、スンと同、病武者の中でも、サーの人、居らぬ者が居て「イヤ、隊長殆く、お徐成され、此節は、法方の日本兵のほをさせ、あの山よの方て居るものは、紙、生体と、人に届ける上、て、退陣、ぜーと云へば、彼の逃歸る男は、中に承知せず、「栗山よ、あなたら、男は、實は、性よ日本兵、お遠慮、泥棒、花や〳〵、皆花と軍歌を唱つく居る〳〵

日本萬歲百撰百笑

日本萬歲百撰百笑

清國の困苦民兵　骨皮道人

海軍も陸軍も滅茶〳〵よ負て〳〵大負負
続けて清國い忽ち兵士よ不足とせで来る
ら、止とうまで國民兵の募集よ着手し而、
つよ来ウヨ〳〵とせて来るのハ皆ぶ清國の
皆ま其者よも拂つく、今ろ其弱き者計り、
殊よ終くも銀でも出さくすれば、茶年ぐ
の時ぶ苦くと云子目的で、けんの日歩ぶ欲
きまして来る年中ま、頭数い多いぶ二人らて
はまま者ま者、何ら斬ら人ろられと恵
ぶ七八十年の老孫爺ぶ奴ハ年数ぶ若い
ら、サ〳〵行よ立さ〳〵ぶと思ふえば、青目ら超
跛ら蒼年ら唖ら又ハ跛病坊木偶
の坊あど、掛ひも拂つく癈人ぶ〳〵だら、涙ム
の土官も當惑て居ま、出て来る奴等ハ年
氣のはで青目「拂腰ア上下ニ百文ー跛「且
那様ら出新出様ぶ腰の立あれ跛まれぶ〳〵で
ら一文〳〵と云ふ様あれば、士官ハ着く持
餘〳〵と云ふ士官「コラ〳〵どうて〳〵一文チウのハ何ぶ
ぶら、其様ま年と云ふと云ふ食過すぶ

支那玉遣ひ　骨皮道人

口上「左西ーーーー左まー身仕度ふ整ひまーーーーる方、ちん物の点ちゃ様方迄礼ふ致させまーるがひまーて是より点覽ふ入ますーらば鞠の一曲ふ点ぞうます太「ヨイ〳〵何と云ふのぞ」口上「口上と云のぞ太「まで〻ふ曲のやうぶ太楽の口上でいあん口上「まぢやア何と云ひませう太「何〻〻いふ知まる半斯云もひば行ぬ……」口上「エ〻扨て……口上「エ〻扨て、扨て、扨て、あて〻〻の拵業コンサ落ーー面……扨て、扨て、度許点覽ふ入ますまする藝道の儀へ、彩叢の支那ふのをひ多ふ点ますまする先ぐんより。で鮮を鞠春すーーーーーーのぞ恥鞠で、まする日本兵ふ膚徳されーつまーこまりてーーーづく鞠あや鞠へーーる体まぐを点覽ふ入ますまして口上「イヨ口上点ふ芸ふ学ー、祝才ハ口上言の頭とポカーリ口上「ヨ、痛へ〳〵……コウ、扨方何ぞて実行ふ人の頭と張倒そのでまく太「支那兵と鞠ふ実の〻〻〻張ハ学行ぞヲハ……喇叭「ヒヨツトコヤ

日本萬歲百撰百笑

日本萬歲百撰百笑

漁翁島のはき家　骨皮道人

支那のちゃん〳〵坊主ハヨワポト弱い奴とおもゝ
ろく〳〵古も廻らあんゝ小兒まそろ小唄る謡
虐ゆゑ、ちゃん〳〵坊主の考ゑ氣地のあんゝ
ハ今又云ふべくも知を切り弾ゆゑ、めゝ何る弱
いゝ〳〵そもそもゝ流ゑゝ中ゝらゝドシく
逃て仕舞まして日本軍ゝ取て減ゝ結合
ゲあゝ、どゝかゝ〳〵サーハ統ゝ〳〵のあゝ戦年
そゝて〳〵ゝ〳〵ゝのと思へゝど何ゝ後せおよの
ゝん空呪い出来あゝゝ、ゝゝ〳〵で日本兵の
思ゝゝ、昌ゝ沒あゝゝ恐怖ゝ〳〵く
逃ゝるのであゝゝ、今ゝゝ彼奴の何附ゝ様
ゝ、窓ゝ場所ゝ結ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝと俄ゝ方
角ゝ結ゝ〳〵ゝ南部の方ゝ行ゝ〳〵ゝ何ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ
ゝゝ〳〵ゝ奴等ゝ、何ゝの〳〵ゝ〳〵ゝ嗅ゝ〳〵ゝ
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝゝゝ〳〵ゝ〳〵ゝ何ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ
ゝゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ何ゝ
ゝゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ様ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ
ゝゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵

新日本の開拓　骨皮道人

日本占領の支那國も愈〻新日本と名付て見ると所論今まで通りの所業其侭で変る所行あんと云ふのは開拓取掛つる変名み一月ふれの年月私肌極る土地でなくて云ふ云ふ云へどうゞと云ふ云へいやらサンパリ見當が付ぬ為に開拓者人民弥ど當惑

一ぶ保一何の鬼もあれ人民の天窓風尾をブラ下て手ぶら、実は外国が悪ふから見とちんぶ生一るチョン切らぢんびあるべらびと、十把一ぐるげる豚尾頭と引抜んで、片っ端から斬込ミあぶら「そ様達は是まで ちゃん〜坊主ぶの孫尾漢ぶあと手ぶ人毎〻笑ふ孔、何所へ行くも高士回様ぶ取扱ふ行く居ぶ斯う人宮垂の天宗ぶあるからふいおう世界ぶ國何様ぶ変へ顔出〻をしても、之流ぶ大日本の人民ぶ云ふ事れ、回ド四位万中のちゃん〜坊主立ても、中様達は餘ど宮の宮の仕分せ者ぶと云へべ、ちゃん的大居ぶんで「本統ぶ是ぶ開拓地ぶ豚接です

日本萬歲百撰百笑

日本萬歲百撰百笑

骨皮道人

二奥の到来

往古〳〵ズンド大むすーの甚又むすーの老爺ハ山へ柴刈に老媼ハ川へ洗濯に往く所に、竟に天子に舜の徳に感じ、自分の娘二人を舜の奥方に貰つゝ先例もあれハ、絶く徳に感じ〳〵時ハ二奥と貰つゝ頭を下ゝに限りて、ぬに好る定本へ故事つけゝ海でもあるまいが、老に角娘ハ金ぶくに云ひおゝ多福にも云べ、之を並ねすてお宿とさるらそと云来あゝんと、彼のちゃん〳〵坊さぐ二奥に台湾の名太を附け、是ぞ〳〵の〳〵の〳〵と添〳〵呼参に来ると云ふ流一と寄き甲一に云く國の名前ならして支那と云ものゝ、一支那を抜く来るのゝ玉寄ゝの〳〵、何れもんある色〳〵取合く持く来るのゝらうと云べ、全一人の男「まり」ア色〳〵持く来る者よ、中黄花梨と揚げ、さんゝ云ふ事よ、まゝ赤狐のかき縫け〳〵青鬼と云きゝドゝの抜ゝが白猫とゝ〳〵ら

サ甲「さゝナールゝど、まゝ嫁和の仕者ゝぶ

和佛〳〵

皇覇妙技

美術錦繪帖

賜

第弐回内國勸業博覽會褒賞

第弐回内國勸業博覽會褒賞

第弐回内國勸業博覽會特賞

其他各種之印刷物

御誂應御需

宮内省御用木版印刷物調進所

文部省御用木版繪畫調進所

大藏省印刷局御用品調達所

東京美術學校御用達

東京日本橋區兩國吉川町

日本固有繪畫木版祖　大黒屋　松木平吉